

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

② 施設・事業所情報

名称：ブライト保育園横浜佐江戸	種別：認可保育所
代表者氏名：内田 香	定員（利用人数）：60（58）名
所在地：〒224-0054 横浜市都筑区佐江戸町2089-1	
TEL：045-931-0190	ホームページ： http://saiseikai.net/brightyokohama
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 2015年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 済聖会	
職員数	常勤職員： 15名 非常勤職員 12名
専門職員	保育士 24名 調理員 1名 栄養士 1名
施設・設備の概要	(居室数) (設備等)
	乳児室 3室 鉄骨造2階建て
	幼児室 3室 建物延床面積 416.14㎡
	沐浴室 1室 庭園 188.91㎡
	調理室 1室
	事務室 1室
	トイレ 3室
	職員休憩室 1室

③ 理念・基本方針

<p>【保育理念】</p> <p>子ども達の生きる力の基盤づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え、行動する（考え抜く力、前に踏み出す力） ・我慢強さ、打たれ強さ、あきらめない気持ち、自分に負けない気持ち ・豊かなコミュニケーション ・豊かな感性、創造性の豊かさ ・仲間と関わる力（チームワーク力） ・自分に対する自信（自己肯定感） <p>【基本方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの興味を引き出すより多くの機会を提供する ・子どもの思いを受けとめる ・子どもが自分で経験することを大切にする ・子どもが自分で考え工夫することを大切にする <p>【保育目標】</p> <p>“私は私（自分らしく生きる）、私はみんなの中の私（みんなと共に生きる）” ≪一個の主体として生きていく基本姿勢を育む≫</p> <p>① 自分の思いを表現する</p>
--

- ② 自分で積極的に「ヒト、モノ、コト」に取り組む
- ③ 自分で考え、工夫して判断する
- ④ 他者の思いに気づき、他者の思いを受け止めていく

④ 施設・事業所の特徴的な取組

【立地および施設の概要】

ブライト保育園横浜佐江戸は、JR横浜線鴨居駅より徒歩約15分、鶴見川を渡り、駅前の大型商業施設や工場、会社が多数立ち並ぶ区域を通り抜けた住宅街にあります。周辺には、園児が散歩に行く10か所以上の公園のほか、せせらぎ、畑もあります。鉄骨造り2階建ての園舎は、落ち着いた外観で周囲によく馴染んでいます。広い窓から陽光が十分に取り入れられて明るく、清掃・整理・整頓が行き届き、清潔感があります。木調の建具や家具、柔らかい色調のロールカーテンを取り入れて、ぬくもりの感じられる温かい雰囲気となっています。2階の3～5歳児の保育室は、パーテーションを開けて、園児が思い切り身体を動かせる広いスペースを作ることができ、雨の日やリズム遊び、行事で活用しています。

【園の特徴】

「子どもたちの『生きる力』の基盤をつくる」を保育理念として掲げています。「つよく ゆたかに キラキラと」という保育目標が読み込まれた全園共通の園歌があります。運営法人は名古屋にあり、給食に名古屋地方のメニューが出ることもあります。①リズム活動（斎藤公子氏のさくら・さくらんぼリズム遊び）を行っていること、②食育係を設け食育に力を入れていること、③0、1歳児に緩やかな担当制保育をしていることを特色ある保育としています。運営法人の方針で2年前から外部講師による英語遊びが全園で取り入れられ、3～5歳児のクラスで概ね週1回、実施しています。7月～12月には、3～5歳児を子どもの性格や相性等を考慮しながら縦割りの3クラスに分け、異年齢保育を行っています。異年齢の触れ合いが、子どもが互いの違いを尊重する心を育てることにつながっています。平成27年4月に開園し、現在、0歳児から5歳児まで58名（定員60名）の園児が、毎日、散歩に出かけたり、制作や友だちとのごっこ遊び等、自由に好きなことに取り組みながら、のびのびと生活しています。

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年6月1日（契約日）～ 2023年4月8日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2017年度）

⑥ 総評

◇特長や今後期待される点

1. 子どもが主体的に活動できる環境整備の工夫

子どもが興味のある玩具や用具を用意することで、主体的に遊べるようにしています。各クラスの子どものその時に興味があるものに合わせた図鑑や本を置いています。職員は図鑑を散歩にも持参したり、クラスの見えるところに虫かごや虫眼鏡を置いています。制作が自由にできるように、生活廃材や色画用紙、毛糸等の様々な素材を子どもが取りやすい所に、ひらがなのラベルを付けて置いています。1階と2階に絵本コーナーを設け、おすすめの絵本を表紙が見えるように置き、周囲に季節の自然物を飾ったり、子どもが興味を持ちそうな面白い呼びかけのメッセージを掲示したり

しています。

2. 子どもが楽しく食についての関心を深められる工夫

運営法人は、「食が子どもの五感を同時に育むことができる唯一の行為であり、『食』が好きなことが『生きる力』になる」と考え、食育を重要視しています。給食理念として「『人』を『良』くするそれが『食』」を掲げ、ホームページに「保育園で大評判の給食レシピ(24品)」を掲載しています。強化磁器の食器は、食べ進むと器ごとに異なる絵とその英語表記が出てくる楽しいデザインになっています。玄関ホールに食育コーナーを設け、子どもと保護者に向けてわかりやすく食に関する情報提供をしています。小さなポストも設け、メニューの感想やリクエスト等を給食職員に伝えられるようにしています。子どもに噛むことの大切さを伝えたり、簡単な調理体験ができる「もぐもぐの会」を実施しています。調理室のドアは今年から全面ガラス張りに改装し、子どもの低い目線からも調理の様子を見ることができるようになりました。

3.安全・安心なサービスを提供するための事故や災害への備えの工夫

安全係が中心となり、安全チェックリストを作成し、環境係と連携して園内外や玩具・遊具を点検しています。各クラスに、保育室や年齢に応じて異なる安全チェックリストを備え、安全な環境の確保に努めています。各クラスからのヒヤリハット報告を確認し、園舎と園庭の詳細なヒヤリハットマップを作成しています。園外への散歩等については、2019年5月に大津市内で起こった保育園児の散歩中の交通事故の教訓を生かすよう努めています。当園周辺の道路も車の通行量が多く、歩道の整備も不十分なことから、警察署の協力も得て散歩コースを1年以上かけて点検し、散歩マップに危険個所を明記しました。また、防災対策として、水や非常用圧縮毛布等の非常用備品を各クラスに分けて、少しずつ違う物を保管しています。「ファーストミッションボックス」を多目的トイレ内に設置し、災害時にボックスを最初に開けた職員が、任務（本部・連絡・救護等）が記載された6袋をその場にいる人に割り振り、即座に緊急体制を作れるようにしています。

4.保育の質の向上についてさらに職員間で話し合いを深める努力

指導計画の作成や保育の振り返りは各クラスに任されており、園長や主任の指導はあるものの、クラスの枠を超えて職員間で保育についての話し合いが深められる機会が少ないように見受けられます。一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所の設定、家庭的でゆったりと過ごせる環境づくり、子どもが安心して自発的な活動ができるような職員の関わり、子どもにわかりやすい穏やかな言葉遣い等、職員の自己評価で課題とされた事項について、改善に向けて全職員でさらに検討していくことが期待されます。

5.地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動の検討

交流保育や園庭開放、育児相談等、地域の子育て支援活動は令和4年度から実施に向けての検討を始めたばかりで実績がありません。民生委員・児童委員とのつながりもまだ無く、地域の福祉ニーズ等を把握する機会が乏しい状況です。園では、地域の子育て家庭に向けて、「プライト子育て応援通信」を発行し、町内会の掲示板への掲示や、近隣の大型商業施設への配架により、子育て情報の提供に努めていますが、今後はさらに、地域住民との関係を深め、地域で望まれる公益的な事業・活動を行っていくことが期待されます。

6.職員が将来の見通しを持てるような職員育成体制の構築

総合的な人事管理は運営法人で行っていますが、職務に関する成果や貢献度を評価する客観的な人事評価基準や、職員が自ら将来の姿を描くことができるようなステップを示した総合的な仕組みがありません。また、運営法人により様々な研修が企画されているものの、専門職としての体系的な教育・研修計画や、経験や能力に応じた一人ひとりの目標管理制度、職員個別の年間研修計画はありません。運営法人の協力を得て、職員の意欲や保育の質の向上につながる、総合的な人事管理・職員育成の仕組みを作ることが期待されます。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価は今回二回目の受審となります。前回は開園してから3年目ということで、日々の保育の振り返りはもちろん今足りないもの、必要なものを第三者評価機関の方から評価頂き、保育の見直しを行いました。今回は受審してから5年が経過しており、5年前との評価の差を知ること、今の自園での取り組みや考え方の見直しを行うきっかけとなりました。職員の入れ替わりもある中で、自園の保育を振り返り、職員同士で話し合うことでそれぞれの思いや考え方、認識の違いに気付くことができ、自己評価や保護者の方から頂いたご意見から、園での課題も見つかり今後の保育に活かせるよう具体的な取り組みを考えていきたいと思えます。

保護者の皆様にはお忙しい中、アンケートにご協力いただきましてありがとうございました。頂いたご意見につきましては、職員間で共有し今後の保育に活かしていきたいと思えます。一人一人に寄り添った丁寧な保育を心掛け、職員一同保育の質の向上に努めて参ります。評価機関の皆様におかれましては丁寧な調査、ありがとうございました。心より、感謝申し上げます。

⑧ 第三者評価結果

別紙2のとおり